

東北学院宗教センター便り

Vol.

1

2020年12月第1号

東北学院宗教センター発行

いのち ひかり あい

LIFE
LIGHT
LOVE



MERRY
Christmas

クリスマス
メッセージ

2

東北学院
幼稚園

3

東北学院
中学校・
高等学校

4

東北学院
榴ヶ岡
高等学校

5

各学校
秋の行事

7

東北学院
大学

6

クリスマス
のご案内

8

お知らせ

8

特集
Christmas
ごあいさつ

クリスマス・メッセージ



宗教センター所長
東北学院院長・学長

大西 晴樹

いま世界は、新型コロナウイルス感染症の拡大に襲われています。感染症の拡大に対して、ワクチンの開発、普及はまだであり、人間はマスクを着用し、ソーシャル・ディスタンスを確保しながら、感染症の拡大を抑えています。それでも、生命と収入がウイルスによって奪われ、多くの人が悲しみと苦しみ、孤独と分断、差別と偏見の中に置かれています。

このような状況の中で、私たちは、イエス・キリストの降誕節を迎えます。2千年以上も前に、イエス・キリストは、栄華を極めたローマ帝国の「辺境」ユダヤの寒村ベツレヘムにお生まれになりました。旅行中の出産でしたが、宿屋には泊まる場所がなく、布にくるんで飼い葉桶に寝かされたのです。じつは、暗く、厳しい状況の中で神から遣わされたこの「いのち」にこそ、人間の救いの原点があり、東北学院のスクール・モットー「いのち ひかり あい」の原点もここにあります。

人間は、神によって創造された被造物であるにもかかわらず、自然界の「中心」にいることを過信して、暴走しているのではないのでしょうか。野生動物由来のウイルス、地球温暖化による自然災害は、自然という神の被造物の中で、人間の救いの原点が「中心」ではなく、「辺境」にあることの意味の大切さを教えています。

クリスマスのお話し

みなさん、クリスマスおめでとうございます。クリスマスは誰でも、どこの家庭においても、うれしいひと時です。「いずこの家にも、めでたき音ずれ」というクリスマスの讃美歌がありますが（101番）、イエス様がわたしたちのところに来てくださり、わたしたちの救い主としてお生まれになりましたので、喜ばずにはおれません。

ところでクリスマスといえば、プレゼントを思い起こす人も多いと思います。サンタクロースがプレゼントを配るクリスマスのお話しや、朝起きると枕元にプレゼントが置いてあったり、友だちとプレゼント交換をしたり、誰かがクリスマスケーキを作ってくれたり、わくわくする時です。その楽しさの最も深いところに神様からのわたしたちへのイエス様というプレゼントがあります。

そこで、今年のクリスマスは、お父さんやお母さんへ、また友だちや身近な人たちに何かプレゼントをしませんか。自粛で、つらいことの多い年ですから、気持ちでも、メッセージでも、品物でも、お菓子でもなんでもいいのです。「イエス様がわたしのところに来てくださったので、わたしもあなたにプレゼントします」と心に留めながら。与えることは受けることより幸いであると聖書も語っています（使徒20:35）。



宗教センター主任
大学宗教部長

野村 信



イエスさま
おたんじょうびおめでとう

東北学院幼稚園
園長 島内久美子

アドヴェントの過ごし方

幼稚園のアドヴェントは教師が保育室や窓等にクリスマスの装飾を施すことから始まります。登園した子ども達は窓辺に飾られたクリブや装飾に「え～これ何?」「知ってる!クリスマスなんだよね」と反応します。幼稚園で初めてイエス様に出会う子ども達。1学期から毎日お祈りしているイエス様のお誕生日と伝えるとまるで友達のように「何歳になるの?」「12月のお誕生会で一緒にお祝いしよう」とすぐに受け入れ、自分たちも飾りを作ったり、「イエス様が来るからきれいにしないとね」と普段忘れがちな片づけを率先して行ったり、それぞれに楽しみながら待つようになります。



クリスマス礼拝への準備

アドヴェントを過ごす中で、一番初めのクリスマスやその意味は、絵本や礼拝でのメッセージを通して少しずつ理解を深めていきます。その中でイエス様がお喜びになることは何かを考え、礼拝の中でページェントをお捧げしようと練習に励みます。また、礼拝で献金をお捧げしようと家庭で手伝いに励み、もらったお金の一部を献金としてお捧げします。もちろん、袋も手作りで。保護者にはクリスマス準備会を開き、宗教部の先生よりお話をいただき、パイプオルガンの音色を聴き理解を広げていきます。



クリスマス礼拝について

当日は学年毎保護者と共に礼拝を守ります。小さな手でお祈りした後はページェントを行います。慣れない衣装に身を包み、沢山の保護者の方々に前に緊張したり、ステージに立つことに不安を感じる子もいますが、「イエス様のために」と幼心を奮い立たせ長いセリフを頑張って言えたり、大きな声で歌をうたう姿に神さまのお守りを感じます。礼拝後はクラスでささやかな祝会を持ち、クリスマスソングを歌った後、保護者の方の手作りのクリスマスカードと子ども達が自分で作ったツリーやオーナメント等のプレゼント交換をします。穏やかな微笑に包まれるこの時、イエス様の愛が満ち溢れるひと時となります。



東北学院中学校・高等学校の クリスマス月間

東北学院中学校・高等学校
宗教主任 松井 浩樹



東北学院中学校・高等学校のクリスマス月間は、大きなクリスマスツリーが礼拝堂に飾られるアドヴェントの期間から始まります。ただ、直前に中間試験がありその後すぐに中学3年と高校2年は研修旅行にでかけます。高校3年生にとっては大学推薦入試、またセンター試験間近という、世間一般で言うところの「クリスマス」の雰囲気ではないアドヴェントとなります。

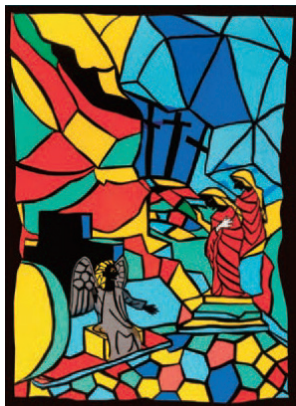
この期間の礼拝は通常よりも多く外部からの先生をお招きし、聖書の言葉を共に聞きます。「神様の独り子が、私たち一人一人のために生まれてくださった」という聖書のメッセージはクリスマスを、神様の深い愛とご計画を覚える時として、生徒一人一人の心に刻まれます。最終日の「全校クリスマス礼拝」は例年、中学1年生のキャンドルサーヴィスから始まります。照明が消され暗闇となった礼拝堂に左手に聖書・讃美歌、右手に火を灯した蠟燭を携えた生徒が入場します。静かなベツレヘムの夜を思わせるその光景は、上級生にとっても、自分が入学した時を思い起こさせ生涯その心に刻まれる光景となります。礼拝の中では、約100名ほどの音楽部と生徒有志によるハレルヤ・コーラスが捧げられます。心温まる豊かな礼拝を生徒・教職員が一つとなってささげます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、録画と放送でのクリスマス礼拝を予定しています。宗教部で考案し、オンラインでキャンドルサーヴィスの映像を各教室に投影する予定です。困難な時代だからこそ、クリスマスに起きた神の愛の出来事が大胆に語り伝えられ、建学の精神に思いを馳せる。慌ただしい中高にあって、そのようなクリスマス月間となるように、祈りをもって歩む思いです。



東北学院榴ヶ岡高等学校の クリスマス

東北学院榴ヶ岡高等学校
宗教主任 西間木 順



本校のクリスマスに向けての準備は、1、2年生各クラスの「聖画」制作から始まります。

聖画制作

主イエスの御生涯を、ステンドグラス風の「聖画」にします。出来上がった聖画は、アドヴェントが始まると同時に、礼拝堂に展示します。この生徒が制作した「聖画」の中から、本校のクリスマスカードに採用されます。

アドヴェント

アドヴェントに入りますと、礼拝堂には、「聖画」の他に、キャンドルが灯され、クリスマスツリーが飾られます。この時期に、院長先生や中高宗教主任、教会の牧師先生に説教を担当していただくクリスマス週間があります。この時期の礼拝を通して、クリスマスの意味を静かに考えていきます。

クリスマス礼拝

クリスマス礼拝は、毎年大学泉キャンパス礼拝堂をお借りしてささげています。礼拝の司会、奏楽等の役割は、生徒が担当します。奏楽を担当する生徒にとっては、パイプオルガンを弾くことができる良い機会となります。

榴ヶ岡高校のクリスマス礼拝の一番の特色は、ヘンデル作曲の「ハレルヤ・コーラス」の全校合唱です。1年生の音楽の授業で、この「ハレルヤ・コーラス」の練習を行います。クリスマス時期になりますと、多くの生徒が「ハレルヤ・コーラス」を口ずさむようになります。泉キャンパス礼拝堂に響き渡る「ハレルヤ・コーラス」は圧巻です。卒業後も、「公開クリスマス」において「ハレルヤ・コーラス」を歌うように願っています。

また、奨学会役員の方々が、音楽部の生徒と共に、讃美を捧げます。奨学会役員の方々が、神を讃美するだけではなく、生徒への音楽の贈り物となります。

今年は、コロナ感染症のために、例年通りのクリスマス礼拝をささげることができませんが、今年度のクリスマス礼拝もまた「共に神の言葉を聴き、共に神に祈り、神に讃美をささげる」礼拝としていきたいと考えております。



響け、輝け、天まで届け♪

宗教センター主任
大学宗教部長 野村 信

聖歌隊の合唱

クリスマスには、東北学院大学の学生聖歌隊と独唱者の皆さんで、メサイアを歌います。今年は、動画で演奏を放映します。本学のホームページから大学クリスマス礼拝を視聴してください。指揮者は中川郁太郎特任准教授、オルガン演奏は、今井奈緒子大学オルガニストです。



クリスマス・キャンドルサービス

クリスマス礼拝では、最後にロウソクを灯して、讚美歌を歌いながら、退場していきます。とても厳かで、美しい光の流れです。

ロウソクの光は、キリストの時代にも、その後のローマ帝国の時代にも、闇に光る「キリストのひかり」として受け取られてきました。

新約聖書によると、キリストは、幾度も光について語っておられます。すなわち、「あなたがたは世の光である。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」(マタイ5:14-16)と。闇が濃いほど、光はまぶしく、貴いものです。

今年は特にそう思います。



各設置学校の秋の行事

東北学院中学校・高等学校



中1学年が「3L希望学」で「河川調査」



TG文化発表会



中学1年研修旅行

東北学院榴ヶ岡高等学校



東北学院大学の先生方による
オンライン講義を受講



入試説明会

東北学院幼稚園



芋ほり



遠足



三二運動会



スクール・モットー

LIFE LIGHT LOVE

(いのち ひかり あい)

東北学院の「建学の精神（スクール・モットー）」は、「LIFE LIGHT LOVE（いのち ひかり あい）」です。イエス・キリストの「命（いのち）」と「光（ひかり）」と「愛（あい）」を指します。キリストの命が私たちに与えられ、キリストの光が私たちを照らし、キリストの愛が私たちを包んでくださいます。そこで、私たちもまた人々の命のために働き、人々に光を与えるために励み、人々を自分のように心から愛するのです。これは聖書に示された貴い教えであり、本院の三人の校祖が心に留め、この地の教育にあたり、以来本院で大切にされてきた教えです。これからも、私たちはこの言葉を胸に刻んで地域の人々に仕え、さらに世界の人々と共に歩みを続けていきたいと願っています。

宗教センターのご紹介

東北学院宗教センターがこの4月から発足いたしました。このセンターは、東北学院の幼稚園、中学校、高等学校、大学全体のキリスト教活動をまとめる働きをします。それぞれが地理的に離れ、学校の特色も異なっている各学校が、パンフレットなどの印刷物や相互交流を通して東北学院らしいつながりを深めることを目的としています。

また園児、生徒、学生、さらに保護者の皆様に、親しみやすく、分かりやすく東北学院のキリスト教活動をご紹介しますと考えています。始まったばかりのセンターですが、どうぞよろしく願います。

皆様の暖かいご支援とご協力を心より願います。

宗教センター主任 野村 信

各学校のクリスマス礼拝

大学クリスマス	12月17日(木) 動画配信	説教者 瀬谷 寛牧師 (仙台東一番丁教会) 聖歌隊による合唱
公開東北学院クリスマス	12月18日(金) 動画配信	説教者 阿部 倫太郎牧師 (東和歌山教会) 聖歌隊による合唱
中学校・高等学校クリスマス	12月24日(木)	説教者 松井 浩樹 (宗教主任) *今年度は放送で実施
榴ヶ岡高等学校クリスマス	12月23日(水)	説教者 加藤 秀久先生 (日本基督教団仙台南伝道所)
幼稚園クリスマス	12月16日(水)	聖書朗読・お祈り 野村 信 (宗教センター主任)



「いのち ひかり あい」第1号

発行：東北学院宗教センター
編集責任者：宗教センター主任 野村 信
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL: 022-264-6558
Email:c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp